

令和5年度 第1回北海道立釧路芸術館運営協議会議事録

日 時 令和5年8月3日(木) 午後2時00分～午後3時30分  
場 所 北海道立釧路芸術館 アートホール

○出席委員 12名

○館出席者 7名

○釧路芸術館共同事業体運営委員会  
運営委員 2名

【議 事】(1) 令和4年度事業報告

- ア 展覧会事業
- イ 芸術・教育普及事業
- ウ 施設の利用状況
- エ 作品収集状況

(2) 令和5年度事業計画

- ア 展覧会概要及びスケジュール
- イ 芸術・教育普及事業・施設維持管理業務

(3) その他

1. 開 会

館長より、令和5年度第1回北海道立釧路芸術館運営協議会の開催する旨の挨拶。

2. 挨拶(運営委員長代理)

新型コロナウイルス感染者数が増えてきてはいますが、弊社としましては社会活動が戻ってきているという認識です。釧路芸術館に人がたくさん来ていただいて、文化芸術の発展に改めて貢献するためのスタートを切ることができればと思っております。本日は色々なお話しを伺い、来年度の事業計画にご意見を取り入れていきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

3. 協議会成立等について

館長が令和5年度第1回北海道立釧路芸術館運営協議会の開催にあたり、午後4時前後に閉会したいこと、また、委員数15名中過半数の12名の出席となり、運営協議会規則第7条2項により本協議会が成立することを宣言した。

前任者の異動に伴い、新たに委嘱された委員を紹介。次に、今年度より釧路芸術館に着任した学芸員を紹介した。

会長より、議事について活発なご意見をいただきたい旨の挨拶があり、議事（１）に移った。

#### 4. 議 事

##### (1) 令和4年度 事業報告

館長より、展覧会事業の観覧者数や観覧料収入、事業費支出状況について報告後、運営委員長代理が収支決算資料について説明。

次に、学芸主幹が各展覧会と関連事業等について報告。「日本の洋画 130 年」展については、笠間市出身のイコン画家である山下りんの作品を釧路と中標津の教会から借用して、地域の美術とかかわりを持った展示ができたということは大きな成果であったと説明。

また、「厚岸・国泰寺の 200 年」展について、地域の重要文化財をご紹介でき、SNS でも話題になった展覧会だったので、こちらも大きな成果である旨、言及。

次に、館長が教育普及事業や貸館について報告、ミュージアム・コンサートや大人の寺子屋、キッズ・アトリエなど多彩なイベントを説明した。また、地域連携・官民連携の試みである「啄木ウォーターフロント・ツアー」は、初めてのイベントにも拘らず、大変好評であったと話した。

次いで、学芸主幹が作品収集状況について報告。令和4年度の新規収蔵作品としては、小林一雄、中江紀洋、野口俊一、羽生輝の4名、7点を紹介。寄託を受けた作品としては、幣舞橋・四季の像のエスキース（習作）と毛綱毅曠「北国の憂鬱」の設計図を紹介した。

さらに、館長が「令和4年度管理の目標達成度評価調書」について報告。「展覧会の観覧者数」や「教育普及事業の参加者数」、「利用者満足度の向上」といった6項目に関して採点され、評価は最上級の「AAA」という高い評価をいただいたと説明した。

最後に、新たな取り組みとして、「道立美術館相互の割引制度への参加」や「近隣施設や釧路市との連携強化」などを挙げた。

会長 令和4年度の展覧会事業や教育普及事業、作品収集状況、それから、管理の目標達成度評価調書等について報告いただきましたが。忌憚のないご質問やご意見をお願い致します。

委員 寄託を受けた作品の将来的な展望はありますか。

学芸主幹 四季の像のエスキースについては、釧路市の所有ですので、このまま展示できればと考えております。

毛綱さんの設計図に関しましては、色々な書き込みがあって思考過程がわかる

非常に貴重なもので、本来であれば購入できるのが望ましいのですが、ご遺族が散逸を防ぐために一先ず寄託されてお受けしています。釧路市は毛綱さんの建築が多く集まっていて、ゆかりの街として海外にも知られていますので、将来的には、購入若しくは受贈して、当館に収蔵することが出来ればと考えております。

会長 寄託というのは、期限を決めて預かっているということですか。

学芸主幹 そうです。2年ということにはなっていますが、確認を取りながら延長していくという形です。

委員 年度別事業別利用者一覧を見ると、新型コロナウイルスの影響で一旦下がった数字が、館長さん始め学芸員の方々の努力でまた増えてきているので、継続して上向いていけばと期待しております。

会長 私からの意見ですが、新規収蔵作品のご説明を頂けたことはありがたかったのですが、報告資料にも添付願えればと思います。

地方の美術館は同様の問題を抱えていることが多いと思うのですが、収蔵庫の空きスペースが年々狭くなっていることがあります。それに、作品の購入予算は段々なくなってきていまして、寄贈に頼らざるを得ない状況です。

一方で、寄贈された作品は高額な費用をかけて館で保存されているわけですから、市民のお宝にして管理していくことだけでも多くの税金がかかっています。

従いまして、どんな作品を収蔵するというのは情報をオープンにしておいた方が住民への説明にも資すると思いますので、次回からは資料の添付をお願い致します。

館長 次回からご用意したいと考えております。

## (2) 令和5年度 事業計画

館長より令和5年度展覧会計画の大まかな説明があり、次に学芸主幹が各展覧会について関連事業も含めて説明を行った。今年度が開館25周年に当たるため、全ての有料展覧会タイトルに「開館25周年記念」が付くことにも言及した。また、9月から開催する「ディズニー キャッツ&ドッグス展」の同時開催として、釧路芸術館のマスコットであるカモメの「ももちゃん」が、猫や犬に関連した作品を案内する形の「かもめのももちゃんを見る Cats&Dogs」展を開催し、出来るだけ親しみやすい展開にしていくと説明した。

次いで館長が教育普及事業の説明をし、そのうち自主事業で行ってきた「一点トー

ク」についてはリニューアルし、展示作品数点の見どころをアテンダントスタッフが解説する「ワンポイント・トーク」として実施していくと紹介した。

引き続き、館長が SNS やホームページの説明を行い、SNS については、年度初めの4月や盆休み前の8月に閲覧数が増える一方、人の流れが鈍くなる冬場は閲覧数が減る傾向にあるとした。

最後に館長が、「令和5年度の新たな取り組み」について、説明を行った。

1. 開館25周年記念事業

開館記念日における記念イベントの実施や記念ロゴマークの作成。

2. 芸術館キャラクターの活用促進

「かもめのももちゃん」の広報物等への掲載機会拡大を始めとした PR による認知向上。

3. 地域連携の拡充

くしろステイメンバーズカード（釧路市の長期滞在者向け優待サービス）対象施設として参加することで、観覧料割引の実施。

4. 学校・博物館連携の拡充

・「博物館浴でリラックス」

九州産業大学と釧路市立美術館との三者で連携し、博物館（美術館を含む）の持つ癒しやリフレッシュ効果を血圧や心理測定で数値化し、健康増進や疾病予防に活用する取り組み。

・中原悌二郎「若きカフカス人」の借用・展示

釧路出身で近代日本を代表する彫刻家・中原悌二郎の名作「若きカフカス人」を北海道立近代美術館より借用して、8月18日から期限付きで釧路芸術館ロビーに展示する。

5. 施設・設備の維持管理

展示室一部修繕工事の実施、中央監視装置の更新

委員

開館25周年という節目の年に、道立美術館や釧路市立美術館と連携し、色々アイデアを絞って、盛り上げようとしているなと感じました。

弊社も実行委員会という形ですが、「ディズニー キャッツ&ドッグス展」の準備を進めていて、前売券の販売を始めたところでございます。

目標値は少し大きいですが、弊社としても力を込めて PR していきたいと思っております。なかなか予算の制約等が厳しい中で、ようやくコロナ禍

から世の中が抜けてきて、人の動きも出て参りました。色々テコ入れを図って  
いけば、徐々に回復傾向が高まっていくのではと思いますので、是非皆さんに  
も釧路芸術館の活動にご協力頂ければ幸いです。

委員

「道立美術館相互の割引制度への参加」や「くしろステイメンバースカード  
対象施設への参加」は、道立館同士の運営形態の違いですとか道と市の違いを  
乗り越えて、利用する方々のために実現されたということで大変素晴らしいこ  
とだと思えます。

奈良原一高展は釧路芸術館と函館美術館のコレクションを活かした展覧会で  
したが、釧路芸術館は作品収集テーマの一つが「写真と芸術」ということもあ  
りますので、奈良原一高に関する何らかの新しい知見と言いますか、定石と言  
える成果を展覧会に反映させることはできたかという点をお聞きしたいです。

もう一点は「ランチ&トーク」や「毛綱建築とアート展をめぐるバスツア  
ー」、「啄木ウォーターフロント・ツアー」などの大人向けのアウトリーチ活動  
が盛んになって、好評だと思えます。参加者について、リピーターの方が多い  
ですとか、イベントによって顔ぶれが違うなど、何か印象に残ったことはあり  
ますか。

学芸主幹

奈良原一高展について、新しい知見というところまでは残念ながら行っては  
いないのですが、当館が収蔵している作家と奈良原一高は親しい間柄でしたの  
で、他の収蔵作品と絡めながら紹介することができました。

また、奈良原一高の作品を展示することで、彼と親しかった写真家の作品を  
お持ちの方から、寄贈の話が来るようになりました。

奈良原一高に関する収蔵作品は約150点ということで、当館のコレクショ  
ンの一つの核にもなりますので、今後も良い形で紹介していければと考えてお  
ります。

二つ目のご質問にあった様々なイベント参加者の層について、食のイベント  
に関しては、確かにリピーターの方が多いです。1回目の食のイベントに参加  
したら良かったので、次もまた次もという方です。新規の開拓という意味で  
は、食のイベントはどうしても参加料が数千円と、ハードル自体が高くなって  
しまいますので、誰もが参加できるというわけにはいかないという部分では考  
えていかなければと思う反面、一定数待ち望んでいる方がいらっしゃるので、  
何らかの形で継続していく必要があると思えます。

館長

前年度から始まりました、「啄木ウォーターフロント・ツアー」は手探りの  
状態に関係者と協議する中で、40人という定員にしましたが、果たしてそれ  
だけ来て頂けるかどうかというのは、実際に募集を開始するまで非常に不安な  
部分がありました。ところが、一定数のリピーターの方はいらっしやいまし

たが、石川啄木という新しい切り口と3つの施設の連携という点が評価されたのか、40名の定員が埋まりまして、とても安堵しました。札幌や帯広から参加された方もいらっしゃって、新たな顧客の拡大に結びつけられたのかなと感じます。

「国泰寺まるわかり！バスツアー」も同様に、ある程度リピーターの方はおられましたけれど、釧路市民の方で国泰寺に行ってみたいという方や、厚岸在住ですが展示を見たいという方もいらっしゃって、これもまた新たなお客様にご参加頂けたのかなと思います。そういう意味では、魅力のあるものを回を重ねて厚みを付けていくという方法もありますし、新たな観点に着目して提供することで、釧路芸術館に足を運んで頂く。そういった取り組みを知恵を絞って行っていきたいので、ご意見がありましたら、お寄せ頂きたいです。

会長 全体を通して他にご意見はありますか。よろしいですか。  
それでは、議事の「(3) その他」について、お願いします。

館長より次回の運営協議会は令和6年2月に予定していることと、議事録は会長に内容の確認を取った上で、委員名を伏せた形で当館ホームページに掲載することの説明があった。

運営委員長代理より、開館25周年ということで、様々な取り組みをしながら前に進んでいきますので、ご協力を頂きたいとの挨拶があった。

全ての議事が終了したため、令和5年度第1回北海道立釧路芸術館運営協議会は閉会となった。